

川西町埋蔵文化財調査報告書第9集

K-859

山形県川西町

分布調査報告書

1985

川西町教育委員会

序

本報告書は、昭和59年度国庫補助事業として実施した、眺山丘陵埋蔵文化財包蔵地の詳細分布調査の結果をまとめたものであります。

眺山丘陵は、標高220m～280mのなだらかな丘で、緑濃い赤松の林に覆われ見事な自然景観を呈しております。昨年度までの調査により、道伝遺遺、天神森古墳、そして丘陵地帯に200基を数える古墳を確認し、「下小松古墳群」と命名、多くの関係者に極めて高い評価を得ております。

本年度の調査は、眺山丘陵地帯全域の調査を行ったものであります。下小松古墳群の周辺を、重点的に踏査を試みましたが、新しい墳丘の確認は出来ませんでした。しかし、天神森古墳の周辺や黒川流域等の調査において、新たに五つの遺跡が確認されました。このことにより、本町の埋蔵文化財の質・量とも一層厚味を増すものと考えております。

本報告書が、埋蔵文化財に対する理解を高め、保護活動の一助になれば幸いと編集したものであります。

本調査にご協力並びにご指導を頂きました関係各位に衷心より感謝申し上げます。

昭和60年3月

川西町教育委員会

教育長 金子兵司

目 次

○ 序	
○ 例 言	
I 調査の経緯	
1 調査に至るまで	1
2 調査の方法	1
3 調査の経過	1
付表1 分布調査工程表	1
II 試掘調査遺跡地名表	2
III 試掘調査実施遺跡概要	5
IV まとめ	30
挿 図	
第1図 川西町全区グリッド配図	4
第2-3-4-5-6図 相馬山遺跡出土遺物実測図	6
第7図 羽山墳丘実測図	15
第8図 墓山古窯跡出土遺物実測図	17
第9図 吉田中遺跡出土遺物実測図	21
第10図 調訪遺跡出土遺物実測図	27
第11図 萩原沢墳丘出土遺物実測図	29

例 言

1. 本報告書は、川西町教育委員会が国庫補助を得て、昭和59年度に実施した眺山丘陵遺跡詳細分布確認調査の報告書である。
2. 調査期間は、昭和59年4月9日から昭和60年3月末日までである。
3. 調査は、調査統括 廣島正康・調査主任 藤田有宣・調査員 月山隆弘・高橋宏平・黒沢一利・参加者 奏 昭繁・藤倉健夫・高橋啓一・渡辺寿三・渡辺昭三・事務局 後藤吉勝・緒形信彦があつた。
4. 本報告書の執筆・編集は、藤田・月山が行ない、写真図版・図版トレース・土器実測は高橋・黒沢が担当した。
5. 本調査にあたっては、佐々木洋治氏・手冢 孝氏・菊地政信氏・藤島建設・町文化財保護協会をはじめ、地権者並びに各関係機関の御協力を得た。記して感謝申し上げます。

I . 調査の経過

1. 調査に至るまで

町教育委員会では、昭和58年度各種開発計画が行なわれる地域として、眺山丘陵遺跡詳細分布確認調査を行ない、8カ所の新規遺跡を発見した。特記できるものとして、天神森古墳及び下小松古墳群などがあげられる。しかし、調査計画全般にわたる試掘ができなかつことから、2年次にわたり調査を行なった。今年度の調査は国庫補助を得て昭和59年4月9日から昭和60年3月末日まで実施したものである。

2. 調査の方法

昨年度の調査において、川西町全域を高戸屋山三角点(368.2m)を中心として磁北線を引き、一辺1km×1kmのグリッドを作っている。今年度はこのグリッド内A地区K-5-B地区L-8-C地区K-9~10-D地区L-11~12の4カ所を中心に調査を行なつたものである。この4カ所は各地区により調査方法が異なる。A地区は、緩斜面の山林地帯であり、現地を踏査し、人為的盛土の有無を確認する調査で、B・C地区は、表土をある一定の深さで掘り下げ、遺跡の有無を確認することにし、D地区はこれまで表探として多くの遺物が確認されているので、遺跡の保存状況を調べるために発掘調査の方法に準じた調査を実施している。また、A~Dの調査区の他に4~5カ所の地区で試掘調査を行なっている。

3. 調査の経過

遺跡詳細分布調査は、川西町教育委員会が主体となり、町文化財保護協会及び地権者、その他関係各機関などの協力を得て、昭和59年4月9日より実施したものである。

調査の日程は表-1分布調査工程表の通りである。また、調査地が水田となる地域は翌年の作付けを考え、試掘面積を最少限にとどめざるをえなかった。

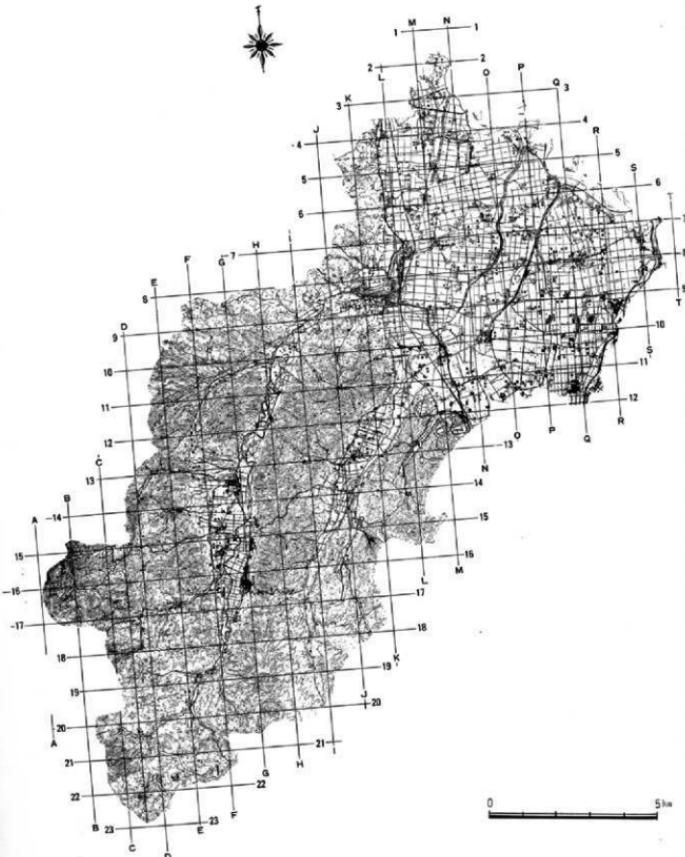
表-1 分布調査実行行程表

遺跡名	期 日			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月
	晴	雨	曇												
羽 山															
塙山・虚空蔵山															
相馬山(西・南)															
綱 文 平															
吉 田 中															
黒 川															
天 神 森 南															
眺 山 丘 陵	-	-	-												
資料整理・報告書作成	-	-	-												

II. 試掘調査地名表

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地・所有者名	時期	地目
1 B	A 集落跡	相馬山	川西町大字時田字相馬山2321-19(他) 佐藤平次	繩文	畑地
	B 集落跡	南相馬山	川西町大字時田字相馬山2321-30(他) 清水信彦	繩文	水田
	C 集落跡	西相馬山	川西町大字時田字相馬山2321 舟山 熊次	繩文	水田
2	散在地	繩文平	川西町大字玉庭字南之沢6784-20,21(他) 貝沼泰	繩文	山林
3	塚	羽山	川西町大字上小松字東陽寺山5122-16(他) 西山ひで	不明	山林
4	窪跡	埋山 古窪跡群	川西町大字時田字虚空藏山2296-24(他) 工藤昭三	奈良末	畑地 原野
5	集落跡	虚空藏山	川西町大字時田字虚空藏山2314(他) 佐藤弘	繩文・ 奈良	畑地
6	集落跡	吉田中	川西町大字吉田字神明1287(他) 情野清一	古墳	畑地 水田
7	集落跡	黒川	川西町大字黒川字橋向78(他) 佐藤信一	平安	水田
8	散在地	天神南	川西町大字上小松字天神1070(他) 増田常吉	繩文・ 平安	水田

立地	遺跡概要	出土遺物	備考
丘陵 (220m)	置賜盆地の西方、成島丘陵より北にのびるゆるやかな丘陵地帯の畑地表土に遺物が散在している。しかし、遺跡のはほとんどは開田により破壊され、旧地形を残すところは少ない。	石器・ 土器	No.1339 No.1340
丘陵 (225m)			
丘陵 (218m)			
丘陵 (520m)	玉庭丘陵における最高峰。尾幡山の南方1kmに位置し、尾根直下の小台地上に遺物が散在している。チップ・フレーカ等が多量に発見される。	石器	新規
丘陵 (314m)	玉庭丘陵より北にのびる丘陵先端部の山頂に位置し。テラスをもつ2つの大きな円形の墳丘と方形のものがある。山頂には薬山権現の祠がある。	古鉄	新規
丘陵 (250m)	成島丘陵からなる丘陵の裾に広がる奈良末期の窯跡である。開田等により7基のうち2基が現存する。ロクロ切り離し痕は回転ヘラ切りが主体となる。	須恵器	No.1338
丘陵 (240m)	成島丘陵からづく虚空藏山の裾にある遺跡であるが、開田等により遺跡は破壊されており、残るのはわずかである。	石器・ 須恵器	No.1336 No.1337
平地 (215m)	置賜盆地の中央部。ほぼ平坦な水田地帯に位置する古墳時代後期の遺跡である。	土師器・ 石器	新規
平地 (212m)	置賜盆地の平坦部を流れる黒川の流域に広く分布する遺跡である。遺物より、平安初期の集落跡である。	須恵器	新規
平地 (221m)	国鉄米坂線羽前小松駅東方250mに位置する遺跡で天神森古墳の南側にある。遺物は磨滅がいちじるしい。	石器・ 土器	新規



第1図 川西町全区グリッド配図

- 4 -

III. 試掘調査実施遺跡概要

1. 相馬山遺跡 (G L-11)

所在地 山形県東置賜郡川西町大字時田2321(他)

調査期間 昭和59年8月10日～9月10日

遺跡の概要

本遺跡は、置賜盆地の西方、成島丘陵より北方にのびる丘陵地帯の先端部に広がる。国鉄米坂線中郡駅の西方約1kmのところで、標高220m前後の山麓を3地域に分け、便宜的に相馬山、南相馬山、西相馬山遺跡として区分している。この遺跡は戦後、畑を開拓する際に発見されたものである。その後、昭和40年頃から畑地を開拓したため、遺跡として現存するところは約東西300m、南北700mである。遺物は数多く発見され、その多くは町外の資料館に保存されている。

今回の調査では、約70m²の範囲で発掘を行なった。畑地表土下約30cmで地山層となり、開拓等で遺物包含層は擾乱されたため、わずかに、土括やピット状遺構の底部が残るものであった。出土遺物として、石旗・サイドスクレーパー等数多く出土している。しかし、土器類は磨滅のいちじるしい破片にすぎない。

これまでに発見された遺物等から、本遺跡の年代は、縄文早期より後期に至る複合遺跡である。

遺跡面積210,000m²

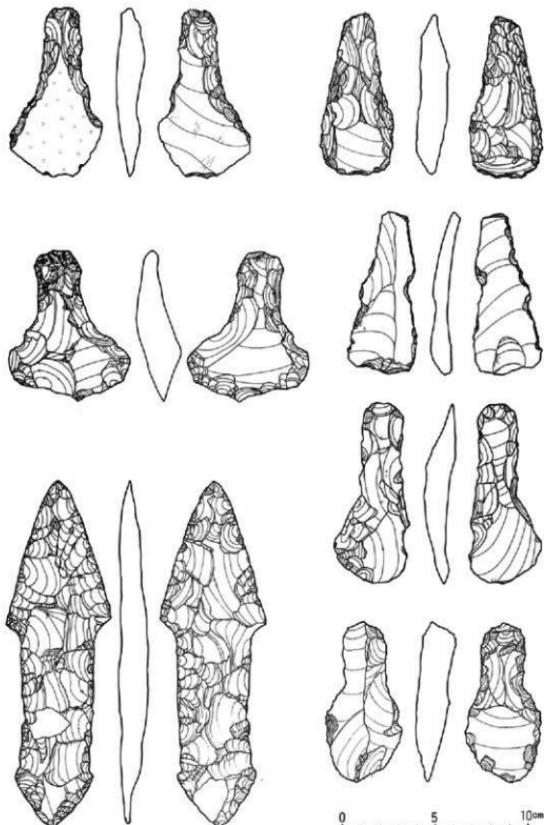


- 5 -



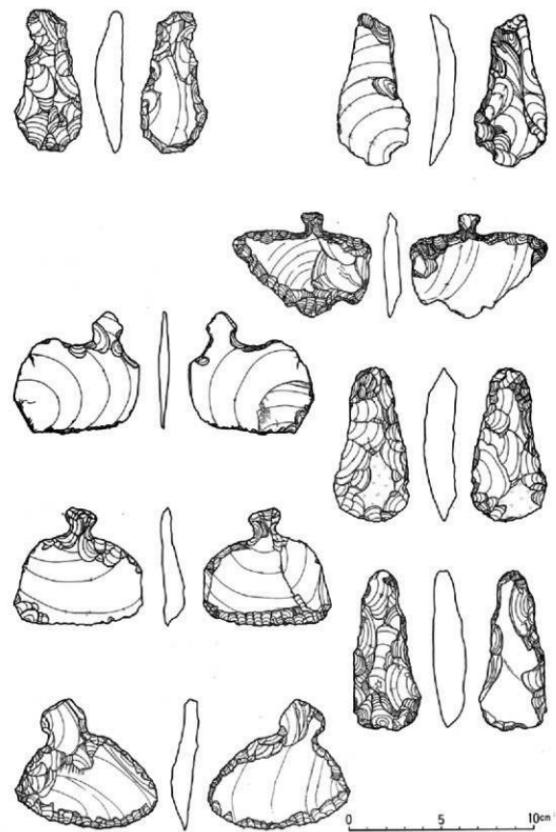
相馬山遺跡出土石器

- 6 -



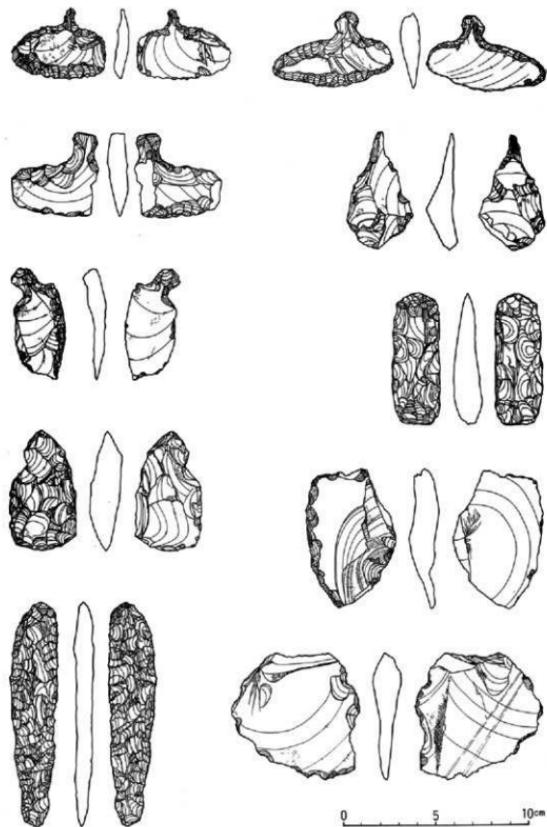
第2図 相馬山遺跡出土石器実測図

- 7 -



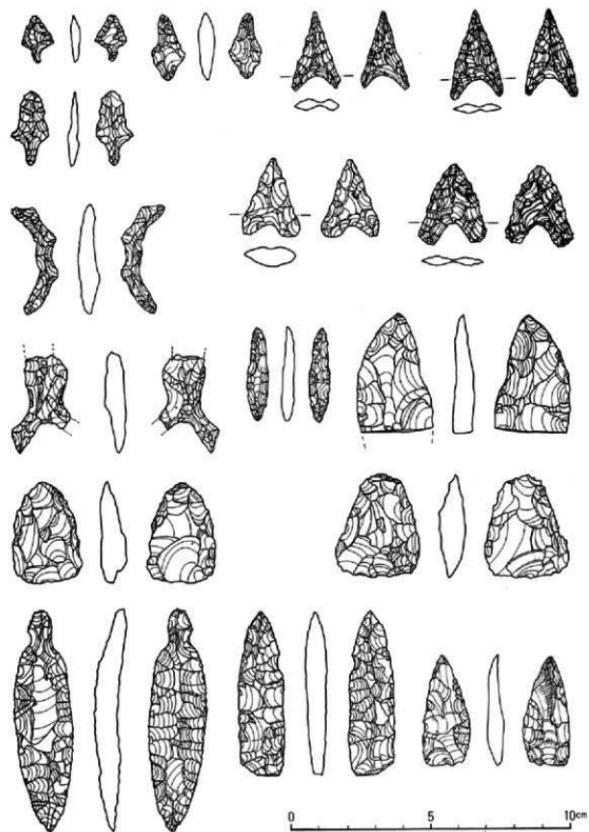
第3図 相馬山遺跡出土石器実測図

- 8 -



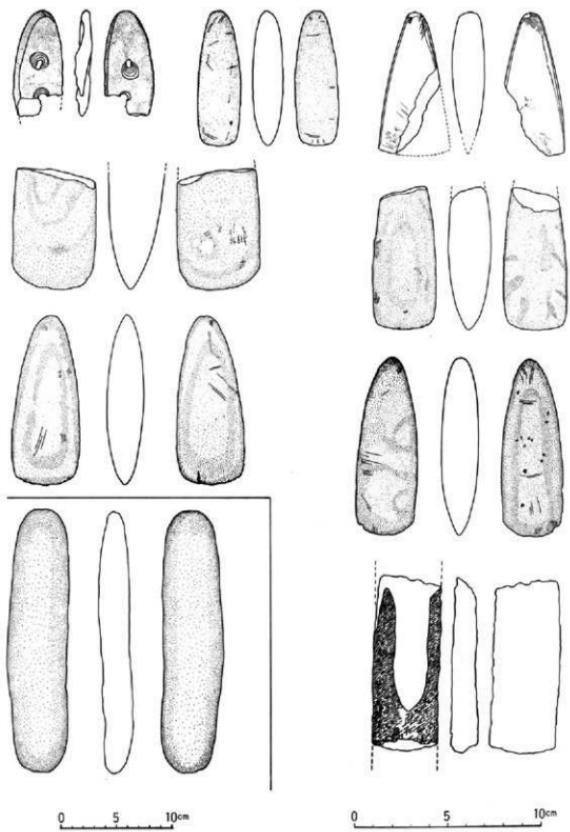
第4図 相馬山遺跡出土石器実測図

- 9 -



第5図 相馬山遺跡出土石器実測図

- 10 -



第6図 相馬山遺跡出土石器実測図

- 11 -

2. 繩文平遺跡 (G A-15)

所在 地 山形県東置賜郡川西町大字玉庭字南之沢6784-20-21(他)

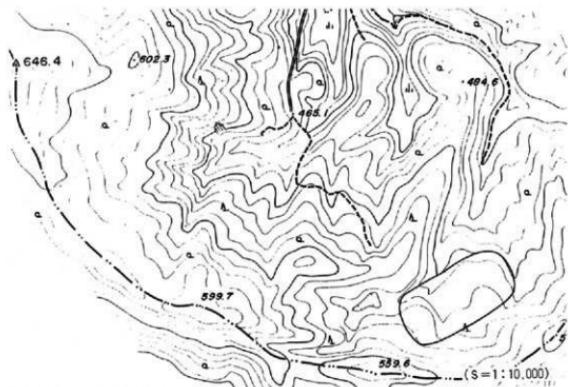
調査日 昭和59年9月21日

遺跡の概要

本遺跡は、町の最高峰である尾幡山(646.4m)の南方約1kmのところで、本町と隣接する銀豊町との境界となる尾根の直下、標高520mの小台地上にある。また、付近には、この台地のある王庭丘陵より、戸豊山系を源とする白川に流れ入る、川西町では唯一の沢がある。遺跡の発見は、この地域一帯に杉を植林した時に造られた林道より、石器が発見されたことによるものである。

今回の調査は、遺跡近くの山土が、水田に利用するため掘り起こされているとのことで、急きょ調査を行なったものである。本遺跡は、およそ東西50m、南北100mの範囲で石器片が散在している。

遺跡面積約5,000m²



- 12 -



3. 羽山遺跡 (G J-9)

所在 地 山形県東置賜郡川西町大字上小松字東陽寺山5122-16(他)

調査期間 昭和59年6月11日～8月2日

遺跡の概要

本遺跡は、玉庭丘陵よりのびる丘陵先端部の頂に位置し、なだらかな山並みの中でも、わずかに高くなっている所である。国鉄羽前小松駅より南西約1.7kmのところで、山頂には、葉山櫛現が祭られ、石の祠がある。古くは木造の神社があり、昔はよくこの山に人々が参ったとのことである。頂には2つの凸があり、この調査において便宜的に南側を前円部、北側を後円部と称することにする。この前円部の頂の標高は約314.6mあり、後円部前円部より1.8m低いものである。後円部北側には方形の塚があり、大きさ14m×12m、高さ1.55mで、中央部に直径約2m、深さ30cmの穴があり、掘りあげられたと考えられる土は、後円部の検点近くに盛られ、アーリッヂ状になっている。

前円部は、35m×35mの円形の塚で、高さは5.8mあり、後円部は、48.5m×32mの楕円形の塚で高さは約3mである。また、この後円部と前円部をつなぐブリッヂが約16mあり、左右にテラスがみられる。このテラスは前円部を巡るもので、巾2～3mのテラス状になっており、後円部にもこのテラス部が確認されるところがある。後円部の頂上平坦部には5.5m×4m、高さ10cmと低い方形の土壇があり、巾60cm、深さ10cmの浅い堀が巡る。また、凝灰岩と思われる石材が埋もれて散在し、この石材には人為的加工跡がみられる。

今回の調査は、立木伐採のち100分の1で実測し、3カ所を試掘した。後円部の試掘地をA、中間をB、前円部をCと称し、調査を行なった。

A地区

後円部北側にある直径約3mの凹が人為的なものであるのかを探るため2m×2mを掘り込んだところ、二重の土括プランが確認され、一度掘られて埋め戻された後、同じ場所を掘りあげたものである。土括は直径1.8m、深さは確認面より25cm下である。遺物は確認されない。

B地区

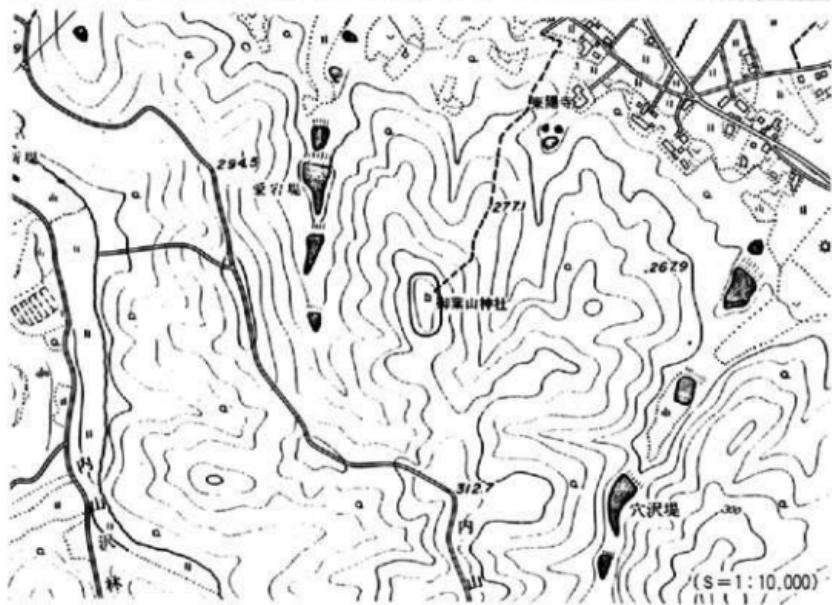
巾2m長さ10mのトレンチを組み、掘り下げを行なったものである。版築は見られず、テラスの表土下40cmには炭が出土している。形を整形するため削り込みを行ない、テラスができたものと考えている。

C地区

前円部頂上に5m×4mのトレンチを組み、掘り下げを行なったものである。盛土はみられないが、上部は整地していることが表土層で確認できる。出土遺物として表土層6cmの



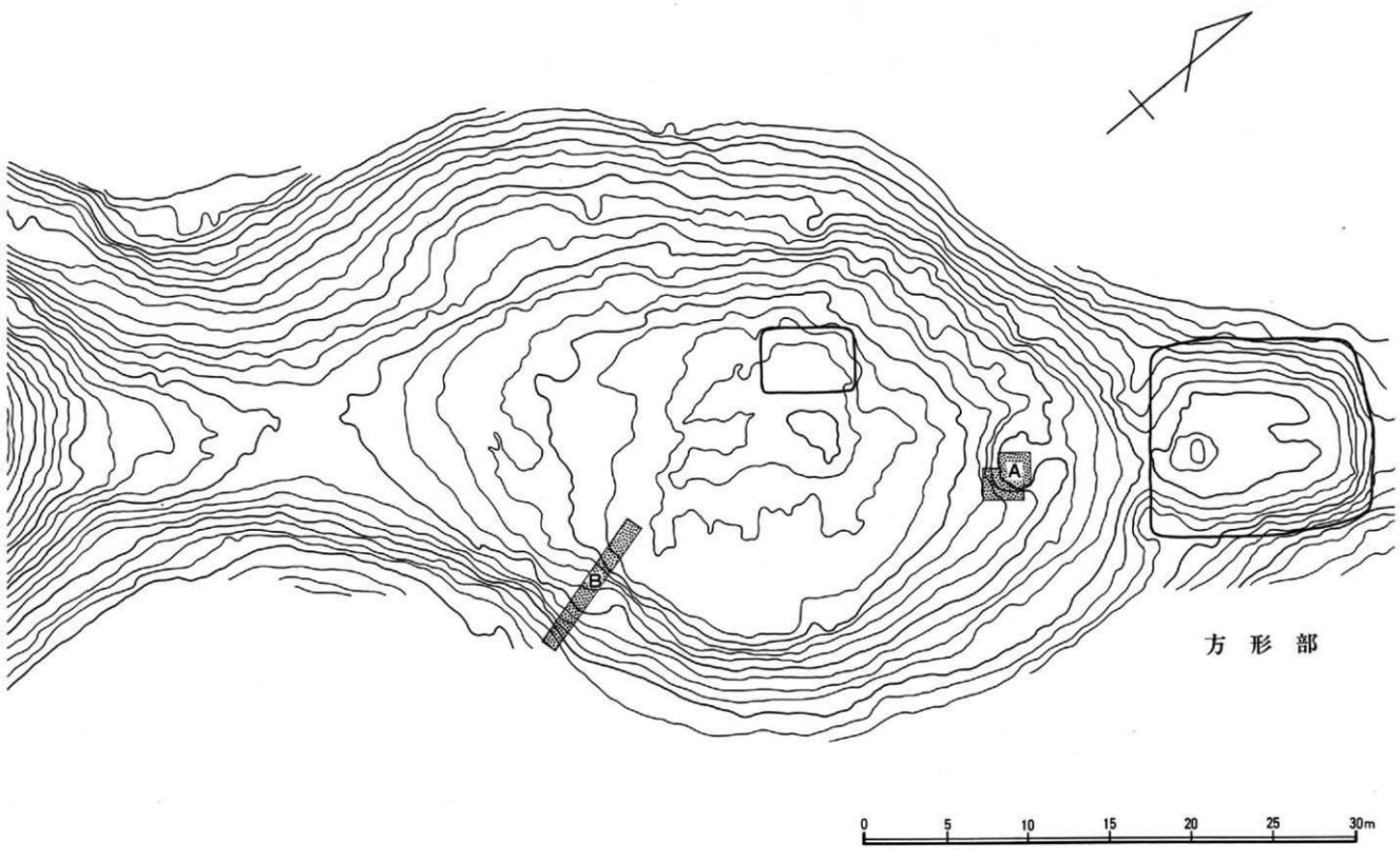
出土遺物



所から寛永通宝2点、凝灰岩質の石塔の破片と推測される石片が出土している。

この調査において、この羽山は盛土は行なわれず、山の頂を利用し、削り込みを行ない、テラスの形をとったものであることが確認された。出土品及び現況より、信仰的な遺跡としてとらえることができる。しかし、今後これから後円部の中心部や方形の墳丘を調査することにより、より正確な位置づけができるよう。

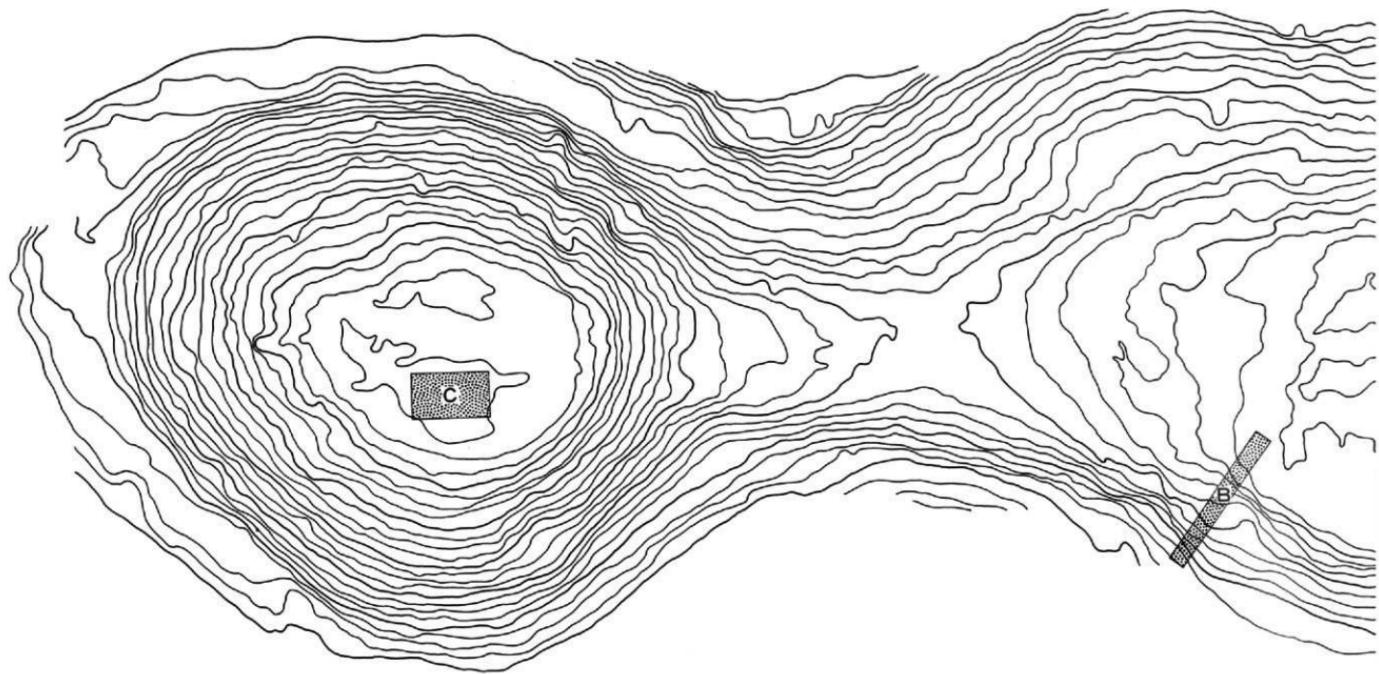
遺跡面積約6,500m²



コンターライン25cm

第7図 羽山墳丘実測図

羽山墳丘実測図



前円部

コンターライン25cm

4. 墓山古窯跡群 (G M-12)

所在地 山形県東置賜郡川西町大字時田字虚空藏山2296-24(他)

調査期日 昭和59年8月10日

遺跡の概要

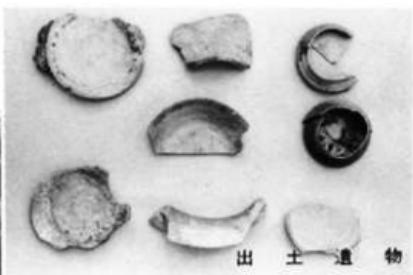
本遺跡は、国鉄米坂線中郡駅の西南約400m、標高230～270mの舌状小台地に窯が造られているものである。昭和20年当時、7～8基確認されていたが、水田や葡萄園を造成するときに破壊され、現存するものは2基と考えられる。窯は、地山の自然傾斜を利用して造られている。灰原は、現在畑として利用されており、耕作土が黒色である。また、多量の須恵器片が散在するため、比較的容易に判断することができ、およそ15m前後の規模をもつものである。

須恵器片は、東西およそ350m、南北400mの範囲で散在し、壺、蓋、甕、皿等があげられる。遺物の中でロクロ使用のものは、切り離しに回転ヘラを使用したものが主体となる。

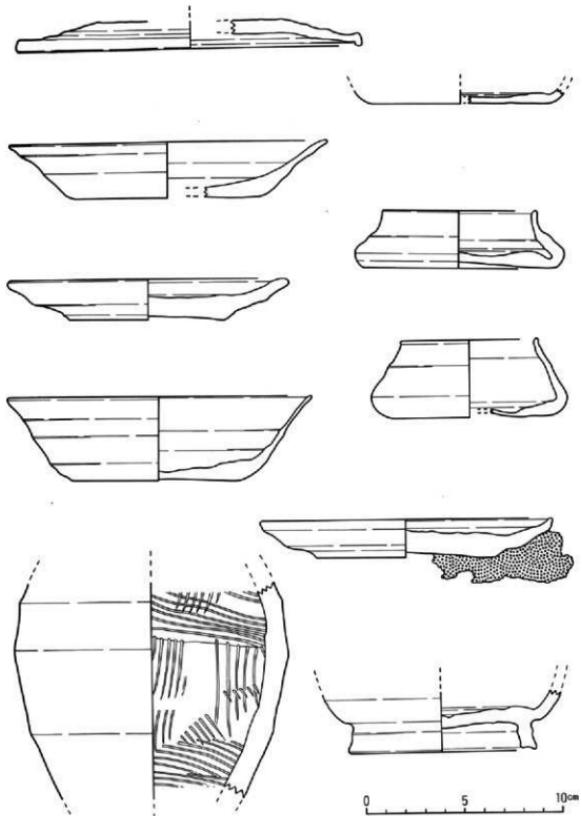
遺跡面積約140,000m²



近
景



出
土
遺
物



第8図 墓山古窯跡出土遺物実測図

- 18 -

5. 虚空藏山遺跡 (G M-12)

所在地 山形県東置賜郡川西町大字時田虚空藏山2314(他)

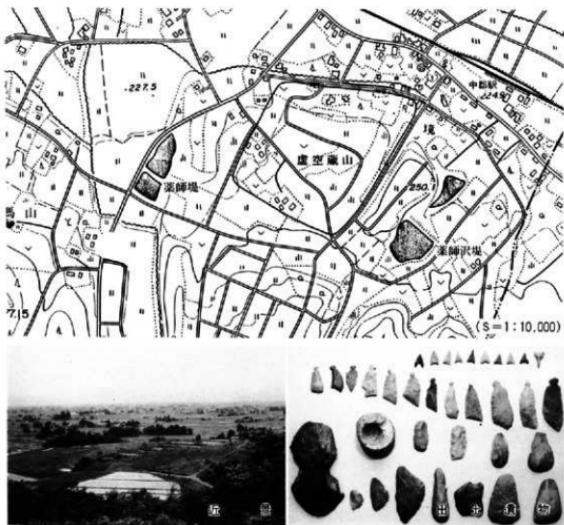
調査期間 昭和59年8月9日～8月11日

遺跡の概要

本遺跡は国鉄米坂線中都駅の近く、標高300mの虚空藏山より東方約500mにあり、虚空藏山からなる小丘陵地帯の台地上、標高220～250mに位置する。この遺跡一帯は戦後の開拓により発見され、その後、開田や土砂採集により大部分が破壊されている。

今回の調査において、石器、須恵器片が表土下20～30cmの深さから、広範囲にわたり検出しているが、遺構面や遺物包含層はすべて擾乱され、破壊されている。遺跡年代は绳文中期を主体とした遺跡であるが、墳山墓跡が近くにあることから須恵器片も多く検出されているため、縄文時代と奈良末期の複合遺跡と考えている。遺跡範囲は東西400m、南北350mである。

遺跡面積約140,000m²



- 19 -

6. 吉田中遺跡 (G P-8)

所在地 山形県東置賜郡川西町大字吉田字神明1287(他)

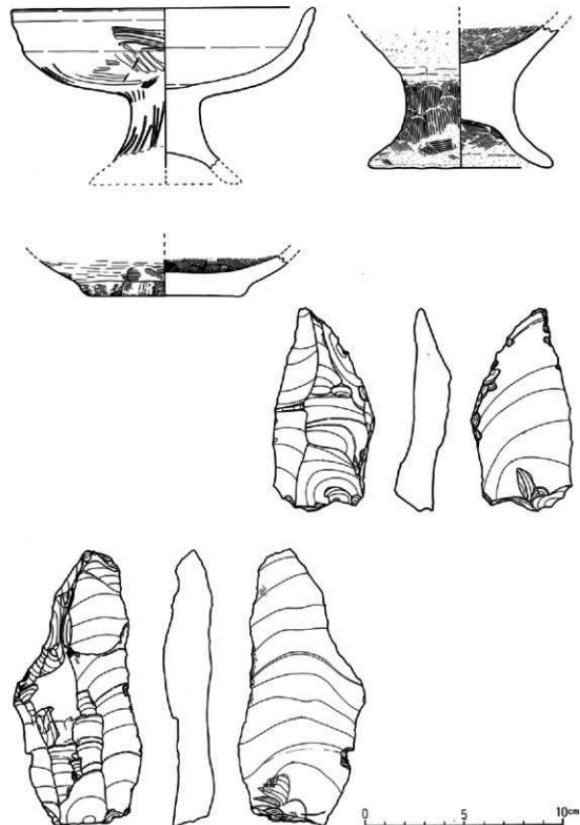
調査期日 昭和59年10月9日

遺跡の概要

本遺跡は、置賜盆地のほぼ中央に位置する標高215mの平坦な水田地帯にある。本遺跡の中央を流れる誕生川の河川工事のおり、土師器高环など土師器片が多量発見されている。

また、試掘調査において、水田表土下約30cmで土師器片が検出され、その他石器等も出土している。高环の形態より古墳時代後期の遺跡と考えている。遺跡範囲は、東西250m、南北200mである。

遺跡面積約50,000m²



第9図 吉田中遺跡出土遺物実測図

7. 黒川遺跡 (G 0-7-8)

所在 地 山形県東置賜郡川西町大字黒川字橋向78(他)

調査期間 昭和59年10月11日～10月13日

遺跡の概要

本遺跡は、町平坦部を流れる黒川流域に広がる平安初期の遺跡である。昭和43年の黒川河川工事の際、多量の須恵器が発見されている。出土したものの中には墨書き器、縦口瓶などがあげられるため本遺跡西方に広がる奈良平安時代の遺跡群、なかでも道伝遺跡など深い関係があったものと推察できるものである。しかし、遺跡面は圃場整備等で擾乱され、黒川の河川敷になった部分もある。環類はロクロからの切り離しがすべて回転糸切りである。

試掘調査では、試掘場所により遺跡面は異なるが、平均20～30cmで地山になり、4基の柱痕を検出することができた。柱痕は20～25cmの丸柱跡である。遺跡は現在畑・水田になっている。遺跡範囲は広く考え、東西300m、南北1.4km、標高212mに分布している。

遺跡面積約420,000m²



黒川遺跡出土・須恵器縦口瓶

8. 天神森南遺跡 (G L-8)

所在地 山形県東置賜郡川西町大字上小松字天神1070(他)

調査期間 昭和59年10月18~20・22日 11月17日

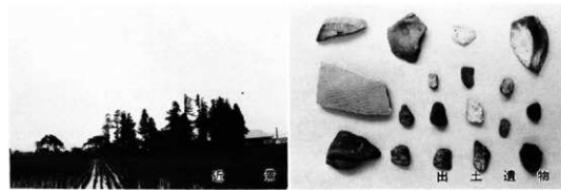
遺跡の概要

本遺跡は、国鉄米坂線羽前小松駅の東側250m、標高221mに位置する。遺跡北方300mには県指定史跡の天神森古墳(前方後方墳)がある。

この遺跡範囲内に筑紫壠(一辺30~40m、高さ3~4m)という墳丘(方墳)が存在したということであるが、大正12年に米坂線の工事で、軌道敷に土盛を行なうために、この墳丘の土が運ばれている。その時、この筑紫壠より、土器片が出土したことである。

今回の調査において、水田表土面下30~50cmで薄い遺物包含層があり、石器・土師器・須恵器片が検出された。出土遺物より縄文時代から平安にかけての複合遺跡と考えられるが、出土土器は小片で磨滅が著しいため、正しい遺物の年代は掌握できない。東西200m、南北200mが遺跡範囲である。

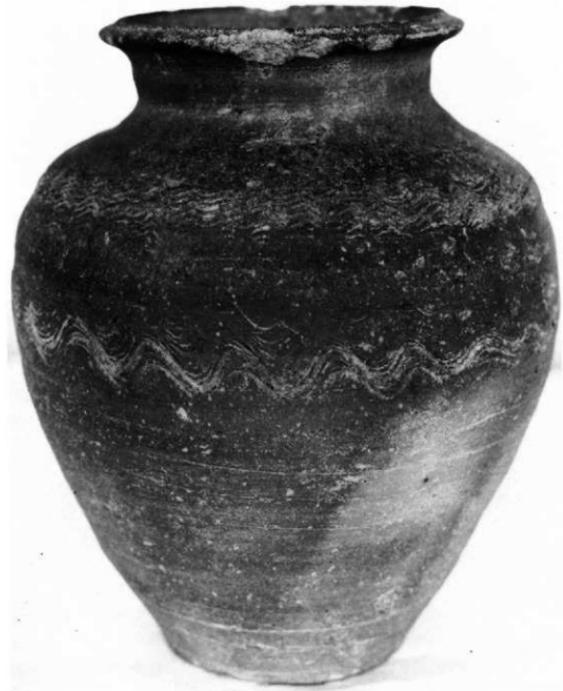
遺跡面積40,000m²



尼カ沢南遺跡出土・須恵器系印花文叩四耳壺

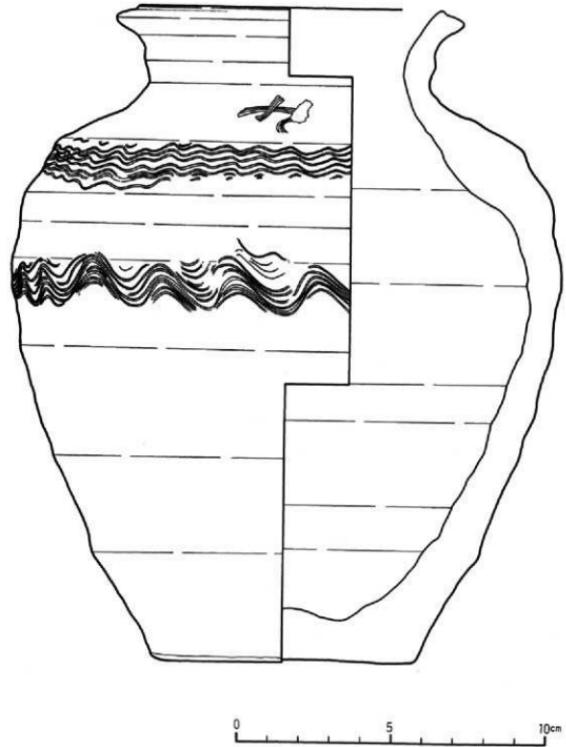
昭和11年、後藤忠恕氏が発見したものである。口縁部は破損し消失している。器高は正しく把握することはできない。現器高28.5cm・胴径31cm・底径11cmで器内は薄く黄灰色をなし、印目は細かく肩部から胴部にかけ文押印があり、四耳壺底をこす。印目は肩部は横に打ち胴部より底部まで右下に施している。内面は横位の刷毛目で調整されている。

この遺跡には48基の墳丘があったことが安部三郎氏の記録した図面に書かれている。この調査は昭和6年7月と同23年4月に調べられたものである。しかし、現在は大部分の墳丘が破壊され、確認できるものは3基だけである。この破壊された墳丘群の年代等を示す資料と考えているが、壺の出土状況等は不明である。



諫訪遺跡出土・須恵器系波状文壺

昭和53年に施工された小松基幹農業用水路工事にて、重機により地下約1mのところから掘り上げられたものである。器高20.9cm・口径11.2cm・胴径17.8cm・底部径8.4cmで、器内は厚く青みがかった灰色で、胎土に微砂粒を含み堅い焼成である。肩部と胴上半に波状文が横走し、波長は肩部より胴上半部の方が振幅が大きい。また、肩部上には「九」の字の刻文があり、波状文と同様な備前状の工具を使用している。



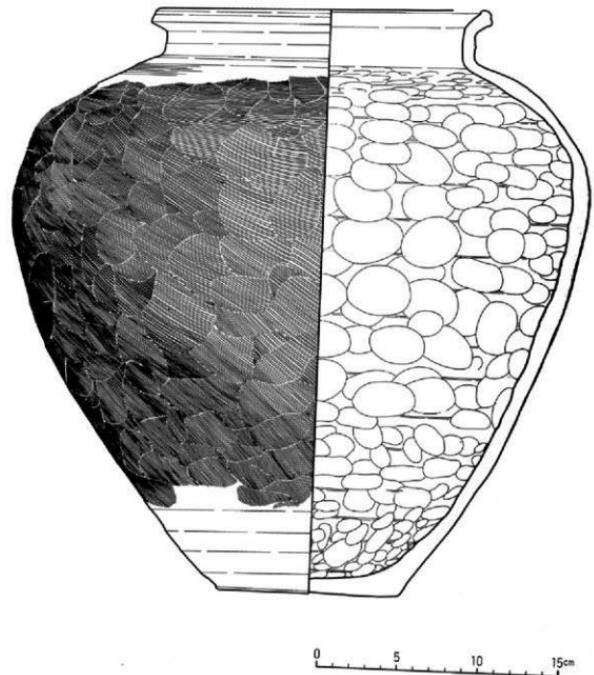
第10図 諫訪遺跡出土須恵器系波状文壺



薬師沢墳丘出土・須恵器系叩壺

昭和11年後藤忠恕氏が下小松塔ヶ峯で発見されたものである。出土状況は四角な石があり、その石をとりあげたらこの蓋があったということである。器高37.0cm・口径20.8cm・底径11.0cmで、器内は薄く灰褐色の堅い焼成で底部面は静止糸切り模を示す。内面は丸いて底、口縁部は横ナデが施され、胴部は横目(縦目)に近い細かい条線状の叩目が右下りに施され、底部側面は横ナデである。口縁部より肩部にかけて自然釉が剥落して灰白色を呈している。

この出土した地点は下小松墳丘群・薬師沢支群の一部であり、この一体は方形の山よせに作られた墳丘を中心に59基確認されている。



第11図 薬師沢墳丘出土叩壺実測図

IV. ま と め

今回の調査は、昭和58年度における遺跡詳細分布確認調査に引き続き行なったものである。今年度の調査によって、5遺跡を新たに確認することができた。しかし、遺跡の現況が水田となっており、広い面積や深い試掘は、次年度の水田作付けに困難をきたすため、地権者の了解のもとに、できるだけ必要最少限度にとどめざるを得なかったものである。

昨年調査を行なった墳丘群の周辺についても重点的に踏査したが、昭和58年度調査結果以外には墳丘の確認はできなかった。

墳丘群の中で試掘を行なったものは、羽山遺跡である。この遺跡の試掘において、羽山山頂には、人為的な盛り土はみられず、削り出した形でテラスがめぐるものであった。しかし、墳丘の中心部には石の祠があるため試掘を行なっていない。これは信仰的な遺跡と考えられるので、正確な年代を把握するため、今後中心部を掘り下げる必要がある。

縄文平遺跡は、今年度の調査地外であったが、重機による表土剥離を行なっているとの急報を受け、試掘を行なつたものである。この遺跡は、山の尾根近くにある小台地上に立地し、多くのチップ・フレーク等を表層することができた。遺跡近くに水場もないことから、興味のもたれるものである。調査の主体となる眺山丘陵一帯において、既に畑地の中で発見されている遺跡は、水田となつたため破壊されている。また、大規模に土砂を採集したため、元の山の形がなくなっているところもある。平坦部の水田地帯で調査を行なつたところでは、水田面下約1mで土器・石器片が検出された。当町では、現在まで平坦部において縄文時代の遺跡が発見されていないことから貴重な調査であったと云える。

分布確認調査において当町全域を一辺1km×1kmのグリッドに組み入れ、そのグリッドは、南北1~22、東西A~Sの202区に区分している。この2カ年の調査で、その内の16区を調査したことになる。今後、町の埋蔵文化財の整理・発見・保護のため、町全域にわたる各グリッドを少しづつ調査を行ない、遺跡の分布を把握する必要がある。



緑と愛と丘のあるまち

分布確認調査報告書

昭和60年3月25日印刷

昭和60年3月31日発行

発行 川西町教育委員会社会教育課
印刷 株式会社 川島印刷